

「市長と語ろう！～みらいの立川を創る～」 立川市老人クラブ連合会理事会【概要】

平成30年11月6日（火）

14時30分～15時45分

柴崎福社会館

1 開会の挨拶

（市長）

こんにちは。昨年に引き続きまして、タウンミーティングを開催できますことを、大変ありがたく思っている次第でございます。

タウンミーティングの中で皆さん方からご意見をいただき、再来年から始まる第4次長期総合計画の後期の残り5年間の修正をかけていきたいなと思っています。

生活をしている中で不便なこと、気がついたこと、様々なご意見があろうかと存じます。そのようなご意見を聞かせていただいて、修正をかけてまいりたいと思っております。

ですから、このタウンミーティングは、例えば高校生の世代、あるいは大学生の世代、そしてまた高齢の世代、そのほかに子育ての世代など、さまざまな世代の方々から声を聞くと同時に、まちの各地域で地域ごとの課題もあります。そんな地域代表の声も聞くということで修正をかけていきたいと考えておりますので、ぜひ忌憚のないご意見をお寄せいただければ、ありがたいなと思っております。

もとより予算に限りがあるわけでございますので、出来る限りのお声は反映させたいなと思っておりますけれども、限りある財政状況の中でベストな選択ができるように、そんなつもりで私どもも皆さん方のお声を受けとめさせていただきたいなと考えておりますので、ぜひ積極的にご発言を頂戴できますようお願いを申し上げながら、冒頭のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

2 意見交換

（参加者）

立川は今、文化的な芸術的な物が市の中に溢れておりますが、昔ながらの、例えば若山牧水の碑であるとか、そういったものをどうも忘れ去られているんじゃないかなという感じがしてならないです。最近また若山牧水の碑はどこにあったんだろうということでよく見たら、電気の下のちょっと暗いところにあったので、何か寂しい気持ちになったんですけどね。例えばもう少し目立つような形でライトアップなどした方が私としては嬉しいなという感じがするんですが。市の管轄であるかどうかわかりませんが、昔からの文化財的なものを少しでも残していただきたいと思いますと思うんですが、どうでしょうか。

（市長）

今の位置についても、たくさんの議論がありました。最終的に、今の場所が選ばれて、周辺の方々もやむを得ないだろうということで、あそこに鎮座させたわけなんです。

なぜそんなに置く場所を苦労したかということ、立川駅の北口というのは、実は狭いんですよ。少しでも広く使うためにはどうしたらいいかということで、2階建てにしました。2階建てにするとときもやたら柱が立つとバスの転回などに邪魔になるわけなので、オレンジ色のアーチがあるんですね。あのアーチは飾りではなくて、柱の代わりなんです。ああ

いう大々的なアーチを建てれば4本で済むということで、それだけやっぱり北口が狭くて、どうしても旧地主の方々のご協力をいただけるのは限度だった。こういうこともありまして、やむを得ずあの位置に最終的におさまったということでご理解をいただければ。

(参加者)

あの場所で、もうどうにもならないということでしたら、もう少し、ライトアップであるとか、もう少し考えていただけないかなという感じがするんですけどね。

(市長)

おっしゃることはよく分かります。どういう形をとれば今よりも目立つような形がつけられるかどうか。実はああいうところの柱を建てる。あるいはペンキを塗るとか、ああいうことは全て警察との協議をしなければならぬという大前提がありますので、逃げるわけではありませんが、警察に相談して、そしてベストな方策を探ってまいります。

(参加者)

災害のときの緊急避難場所について、高松町は立川通りを挟んで左右に町会活動をしている町会がかなり多いんです。避難場所について駅のほうから向かって左側のほうは第五小学校が避難場所になっていますけど、右側の競輪場のほうは避難場所が今のところないものです。ぜひ競輪場関係の場所を避難場所にしていただきたいという要望がかなりありますので、よろしくをお願いします。

(市長)

私どもも承知しておりまして、競輪場は大規模災害のときの避難物資の集積所ということにしてありますけれども、いざというときになりましたら、避難物資なんかまだ届く前の命を守る場所になりますので、競輪場も近い方は遠慮なく逃げ込んでいただいて結構でございます。

(参加者)

年に2回、砂川中央地区の多目的広場でグラウンドゴルフ、ペタンクの試合をさせていただいています。入り口のところにはトイレが10個か12個ありますが、南へ行きますとトイレが2個しかないの、あと2個ぐらいは、つけていただきたいです。資料には「緊急度や優先度に応じて順次行っているところです」と書かれていますけど、ぜひ南のほうに2個取り付けていただければありがたいので、よろしくお願いたします。

(市長)

はい、分かりました。現場を調べさせてもらいます。

(参加者)

見影橋のグラウンドが練習場になっているんですが、今、工事をしていてトイレが1個しかないんです。仮設でもいいから、工事している隣あたりに作っていただきたいので、よろしくお願いたします。

(市長)

一番南側にある鉄筋コンクリートで作ってあるトイレですか。

分かりました。何とか工夫をして、不便の解消をします。

(参加者)

立川駅北口のバス停とルミネの間の道を通る自転車を降りて手で押して通行するように市で検討して欲しい。資料には降りて通行するように指導していくと書いてありますから、この辺が前向きに進んでいけばいいんですけど、大変危ないのでよろしくお願いします。

(市長)

分かりました。あそこは歩道のところは乗ってはいけないという原則になっています。立て看板を立てるなり指導を何らかの形で、対応してまいります。

(参加者)

災害時の被支援者の名簿について、市が名簿を作成して、自治会や民生委員に送られるということになるんだと思うんですけども、その先がどうにも動かない。互いにみんな年をとってききましたので、支援という形にならざるを得ないと思うんですけども、要支援者の情報がなかなか開かれない。プライバシー保護との兼ね合いがもちろんあると思うんですけども、いざというときに支援が必要な方をどう支援するのかというところが動かない。ですから、名簿を作成して下さって手渡して下さってその後、どういうふうにすればいいのか。こちらに一方的にうまくやってくれというような形では動かないですよ。そこをどういうふうを考えていらっしゃるのか、伺いたいです。

(福祉保健部長)

要援護者の関係ですが、最初、名簿を作った時に元気な高齢者もみんな、要援護の対象として名簿を作ってしまったので、本当に援護が必要な方を、もう一度名簿化しているところです。その後、その名簿に載った人をどうするかという考えは、名簿が作成された段階で、どう援護していくのかというのを、検討して具体的に地域の方をお願いしていくような予定であります。

(参加者)

その先が聞きたい。

(福祉保健部長)

登録者個々の避難支援プランの作成を考えておまして、名簿が作成された段階で、その避難支援プランを個別に作成する予定ではあります。

(参加者)

1人の要援護者に3、4人は必要になってきて、しかもその個別のケースが千差万別という形になりますので、そこを、自治会の方に上手くやっってくださいと投げられても、非常に難しい。

(福祉保健部長)

その辺は重々承知しております。例えば寝たきりの方を援護するときには1人で援護することは無理ですから、本当に援護が必要な方を絞り込んで、その1人ひとりに個別の支援プランみたいな形を考えておりますので、それもやはりよく考えて議論しながら、皆さんと相談しながらやっていきたいと思っております。

(参加者)

私どもでお願いしたいのは、その要援護者の方が皆さんに自分の状態を知られるのを嫌がるという例がとて多いので、そうすると、どうにもならないですよ。だからできるだけ、どういう接し方が適切なのか。そこら辺をどうすればいいのか。

(福祉保健部長)

私どもも悩んでおります。本当に必要な方が自分のプライバシーをさらけ出したくないという方もいらっしゃると思いますので、そういう方を援護するのは本当にどうしたらいいのか。

しかし、もし災害が来たときに対応できなければ困りますので、ない知恵を絞りながらこれからその要援護の仕方を細かく考えていきたいと思っております。

(参加者)

立川も健康ポイント事業を推進していますね。これはウォーキングが主になっているんですね。私が今年に体験して、一番効果があったのが、筋トレです。

立川も健康ポイント事業に筋トレを含めていただいて、高齢者に盛んに勧めていただければ医療費がかなり節約できると思いますので、参考にしていただければと思います。

(市長)

過去にそういう、筋肉をつけるような体操教室とかいろいろな種目を始めているんですけども、要は最終的には当事者の意識があるかどうかでしょうね。

(参加者)

それをポイントで、ぜひやってください。

(市長)

毎日続けるのが大変一番大きな力になりますので、そこら辺の健康運動というんでしょうか。自分の健康は自分で守る。というところが一番であるかなと思っています。

(参加者)

緑川公園での下水工事の件ですけども、我々は曙三西公園をお祭り等に使用してもらっていて、以前、説明会を受けた時は、あと1年くらいは利用しても大丈夫と説明を受けたんですが、本日の資料を見ると終了した箇所の上を利用可能であると思われると書いてあります。下水道の配管を東橋から最後まで先に行い、車道は後にするということですか。前の説明会ではそのような説明はなく、東橋に近い場所を先にやって、その上を配管だけやったところを使ってくださいと受けたんですが。

配管の工事を最後まで全部やって、それから車道に入るのか。よく分からないので、説明していただけますか。

(総合政策部長)

資料に書いてあるように緑川の真ん中に駐車場、両側に車道があります。それで、下水が入っているのは駐車場の下側部分なんです。その駐車場部分は東橋から中央線の交差点分ぐらいまでを、4期か5期に分けて少しずつ区間を割って下水を入れていく工事をするということになります。ですので、区間を分けて、その最初の1期の工事が終わった段階では、もう車道も整備されていますし、上の駐車場の用地、今度、駐車場にするかどうかというのはまた別問題ですけども、その用地もきちんと整備されます。

そういった、例えば1区間、それから2区間、先にできたものについてはその用地とかスペースがあきますので、そこで行っていただくことができるのではないのでしょうかと、そういう理由なんです。

(参加者)

あの車道も並行してやるわけですね。

(総合政策部長)

車道の下は直接下水は入っておりませんので、とりあえず車道は残ります。

(参加者)

車道は残って最後に車道は2車線にして配管だけをするということですか。

(総合政策部長)

そうです。ボックスカルバートといいまして、あそこの駐車場の下には箱型の下水が入っております。それを区間ごとに割って幾つか、何期かに工事を分けて行います。一番最初が東橋から少し東側までやり、そこが整備されれば、今、駐車場になっていた場所がスペース等空くので、その部分でそういった活動をされたらどうですかという意味合いのもので。私どもも地域の方がこういうお祭りや地域活動に使われているので、その辺も、現地調査しています。今の段階ではこのお答えしたとおりの方法ですけれども、いずれにしても地域活動に支障がなるべくないような形で考えていますので、もう少し詳細になりましたらまた説明会なり直接お邪魔しまして、ご説明はしようかと思っています。そういうことでご理解いただければと思います。

繰り返しになりますけれども、私どもこの工事をする際に一番考えたのはその部分ですので。地域の皆さんにご迷惑をかけないような形での工事の方法だということによってやっていきますので、ぜひご理解をお願いします。

(参加者)

富士見町7丁目の公園があるんですけども、藤の周りは鉄なんですけれども、一番根が張るところの上は木だったんですね。もうぼろぼろで、危ないから交換して欲しいとお願いしたんですけども、今、予算がないんですねと言われました。

しかし、交通安全対策支援で、私も驚きましたけれども、3年生の自転車教室で信号機が届きましたと。片方ではお金がないというし、片方は余分なものというのは失礼ですけども、信号機が届きましたと。少し不思議に思ったので。質問させていただきます。

(総合政策部長)

一方で公園の樹木の関係の整備費がなかなか予算として計上できないのに、一方でそういう交通安全対策については予算がついているじゃないか。そういうお話ですよ。

申しわけございません。市長をトップに予算の計上についてはバランスよく各施策にお金を配分しているつもりですけども、なかなか特に公園整備についてはご存じのとおり立川市内、非常に多くの公園もございますし、道路整備だとか道路の維持管理、特に今はインフラ整備といいまして公共施設、道路、そういったものの老朽化がかなり進んでいますので、そういったところはかなりお金をつぎ込まないと、立川の市民の方々の安全だとか安心の部分がどうしても確保できないということで、そういったところに予算を配分している部分もございます。

一方で交通安全の部分もやはり、子供たちの安全というテーマは非常に重要ですので、全て100%満足の予算計上というのはなかなか難しいところですが、今おっしゃられたことについては担当課にももう一度私どものほうからお伝えしまして、早急に何らかの対応をするようにはお伝え申し上げます。

(参加者)

昨年、くるりんバスの制度については今後見直していくと。ただ、時間がかかるというようにお話だったんですね。若葉町では依然として非常に不便な思いをされている方は多いという状況です。その後の進捗をお聞きしたい。

(総合政策部長)

くるりんバスの運行ルートにつきましては、ルートを5ルートに変えたんですが、やはりこれも実証実験ということで、不便地域をなるべく多くの方に乗ってもらうというルートをいろいろと組み立てているところではございますが、やはりまだ、皆様の利便になかなか役立っていないという部分が数字的にも出てございます。担当課のほうとしましては今5ルートありますけれども、今年度いっぱいぐらいはある程度実証実験を続けながら、来年の夏ぐらいには新たなルートをもう一度見直したいというようなことは言っておりました。

これは立川市だけではなくて、警察や、民間のバス会社等が入った委員会がございまして、この中でなるべく多くの方に乗っていただく、そういう効率的なルート、これを今いろいろと探しているところではございますので、もう少しお待ちいただいて、また来年の今ごろには新しいルートがおそらく発表というか、運行されているような状況になっていると思います。ただ、そのルートが本当にまた皆さんの満足に応えられるのかどうかというのはまだ分かりませんが、我々としてはなるべく多くの方に乗っていただかないと我々も、かなりの部分の持ち出しも立川市としてありますので、であれば多くの方に乗っていただく。それで利便が確保できるというのが一番でございますので、今、工夫しているところですので、もう少々お待ちいただければと思います。

(参加者)

今のくるりんバスについてなんですが、金額を、なぜ倍近くの金額に上げたのか、そこがちょっと理解できないでおりますけれども。なぜ料金を上げなくてはいけないということになったのでしょうか。

(総合政策部長)

それ以前は100円ということでしたので、それが180円というのは市民の皆様から、極端に上がったという印象をお持ちだと思います。その話はやっぱりある意味、先ほど申し上げましたルートの収益性と密接に関係している部分がございます、毎年税金から6,000万円、7,000万円ぐらいをくるりんバスに投入して運行しているという状況があります。税金という点では受益者の負担も大変重要な観点ですので、180円という設定をさせていただきました。

収益性の確保が順調にいけばこの180円というのも見直す可能性はあるかもしれませんが、他自治体を見ると、住居地域をくまなく回るような形で多くの利用者がいっぱいということで収益性が非常に上がっているんですが、立川市の場合はまだすべての地域に住宅がある状況にないので、逆にその地域が交通の利便性が悪いみたいな部分があって、そこを回すとご利用の機会が少なく収益が上がらないというような、ある意味では悪循環みたいな部分もございますので。その辺は料金と、それからルートと、それから一番は市民の皆様の利便性、これを両立するような形で今、見つけているという状況ですので。180円は急に上がって高いなという印象は持っておりますけれども、ご理解をいただければ

ばと思いますので、よろしく願いいたします。

(参加者)

以前は大勢の方が乗っていました。180円になりましたら乗る方がすごく少ないので、市民の足ですので、皆さんのことを考えてぜひ金額はもとに戻していただきたいなど要望いたします。

(総合政策部長)

180円をもとに戻すというのは大変難しい課題だと思います。我々としても金額が高いというのは非常に課題として捉えていますので、もう少し何か工夫ができないのかということで検討はしていきたいと考えてございます。

(参加者)

前回、羽衣町が過疎化しているということで、それに対して検討し、バスの運行を考えていただくありがたいなということを私、質問したと思うんです。

それでアイデアとしては今、北口のほうからオリンピックがありますよね。あれをうまく使っていれば折り返し点を羽衣町にしてもらってもいいし、あとは考えていただくありがたいというようなことを私は申し上げたんですけれどもね。それで、また同じことをまた来年検討したいということをおっしゃるんですね。それじゃあちょっと困りますよね。苦言になりますけれども、そういうことです。

(総合政策部長)

くるりんバスの話はいろいろといただいています、去年、私がお答えしたときには特に年限を切らなかったと思います。私が直接担当しているわけではございませんけれども、担当部署の方でも検証の年限をどこに切るかというところをいろいろ実証実験しながら決めておまして、今現在お答えできるのは、先ほどお答えしましたとおり今年度いっぱい検討、実証実験の時間にしましょう。その結果を見て、早ければ来年度中に何らか新しいルートを見出しましょうということです。

(参加者)

福祉会館の畳の入れかえとトイレの改修が資料を見ますと2030年以降になりますと書いてあるんですが、長過ぎるんじゃないかと思うんですけれども。

(福祉保健部長)

市の全体のいろいろな計画の中で30年という予定でおります。予算のかかることなので順次、やっていきたいと思っておりますので、ぜひご理解をいただきたいと思います。

現場としてはできるだけ早く改修したいと思っております。

(参加者)

資料に共済立川病院の跡地の使い方が「検討を行ってございません」とありますけれども、検討をして、前向きに取り組んでいただきたいなと思うんです。

なぜかというところ、緑川第一公園は私どもで管理をしていますが、そこには桜の木があったり、ベンチがあって大変いいところなんです。ですが、球技をやるところがありません。我々もグラウンドゴルフをやって盛り上がっているんですが、工事の関係で小さなところでやっている状況です。

羽衣町には大きな公園がありません。要するに球を扱ってやるようなところがない。ゴルフをやるには本当は50メートル程必要なんです。見てもらうとわかるんですが、50メートルはとれるんです。だけれども、左右が15メートルから20メートルぐらいしかない。

そんなことなので、その跡地を何とかこのような形でやってもらうと大変こちらも発展すると思うんですが、ひとつご検討、よろしくお願いします。

(総合政策部長)

資料に書いてあるとおり、殆どが国の土地になりまして、財務省のほうで土地の処分の方向性については明確に示してないので人の土地に対して私どものほうでこうする、ああするとなかなか言えないような状況が現状でございます。

ただ、平成22年に旧庁舎周辺地域グラウンドデザインということで、こんな土地利用をしたらどうかという基本構想を作った経過がございまして、私ども自身としてはこういったまちづくりをあの地域にしていっていいかなという、コンセプトは持っています。

ですので、そういうコンセプトをある程度、国や立川病院さん等と協議しながら、私どもである程度、今のご希望も含めた中で希望が達成できればと考えているところですが、時間はかかるかと思えます。

(参加者)

立川市で健康管理の点からラジオ体操を奨励していただきたいです。これをやると非常に健康管理によろしいですので、市のほうで音頭を取ってやっていただければ盛んになるのではないのでしょうか。

(保健医療担当部長)

おっしゃるとおりラジオ体操はいいものだと考えています。市でラジオ体操も含めた健康体操応援プログラムという、このラジオ体操とストレッチを組み合わせたようなそういう体操も考えて広めていくような活動は既に行っているところです。

まだまだPRが不足しているところもありますし、今おっしゃったようなことは市のほうでも進めていきたいと思っています。ただ、ラジオ体操自体は市が音頭を取ってやるというより、それぞれの地域で皆さんの自発的な活動が盛んになってきているというのはお聞きしていますので、そういう活動を、活動に対して必要な支援があればまた考えていきたいとは思っています。

3 閉会の挨拶

(市長)

大変どうもご協力ありがとうございます。立川全域からのいろいろなお声を聞く予定ということでございます。皆さんからいただきました貴重なご意見、できる限り将来の立川の発展のための糧に参考とさせていただきますと思うわけでございます。今日は大変どうもご協力ありがとうございました。